長きを勝とす、繪合は繪にて物を合する也、古は琵琶合もありし、古く名あるびはを合せし也、すべて何を合する、何は合せずと定りもなし、時によりて何をも合する遊び也、草合、貝合、根合の類は、各歌をよみて其物にそゆる也、其歌によせ作り物をすはまなどの臺にして、その臺に草にても貝にても根にてもすべて出す也、其歌に勝負あり、又草子合は古き物語の草子を合す也、又扇合もあり、鴨合もあり、皆古代の遊び事也、勝負の舞樂ある事もあり、花奢風流をいとなみあらそひ、其料に多くの財をついやせり、尤婦女の悦ぶ事也、

〔倭名類聚抄四雜藝〕鬪雞　玉燭寶典云、寒食之節、城市多爲鬪雞之戲、鬪雞此間云、止利阿波世、

〔箋注倭名類聚抄二雜藝〕原書作此節城市尤多鬪鷄鬪卵之戲、按、荆楚歲時記云、去冬節一百五日、卽有疾風甚雨、謂之寒食、禁火三日、造餳大麥粥、鬪雞鏤雞子、鬪雞子、是寒食之節、鬪雞鬪卵並有之、源君引證鬪鷄、故節鬪卵二字也、

〔類聚名義抄七門〕鬪鷄トリアハセ

〔伊呂波字類抄止術藝〕鬪鷄トリアハセ

〔世諺問答〕鷄合と申侍る事は、何のゆへにて侍るぞや、

答、もろこしの事にや、明皇唐と申御門、たはぶれに鷄を鬪はしめ給ひしに、ほどなく位につき給ひしより、小兒五百人をえらみ、治鷄坊といふ所をたてゝ、鷄をかはせられしとかや、またかの明皇は乙酉のとし生れ給ひしゆへ、鬪鷄をこのみ給ひしよし、東城老子傳と申ものにてみ侍りし、

〔塵袋三〕一ニハトリヲアハセ、鷹ヲアハスニハ合ノ字ヲ用ル歟、トリアハセ、草アハセニハ鬪鷄、鬪草トカク、○下略

〔禁秘御抄下〕一鳥

幼主時、小鳥合并鷄鬪常事也、子細無定樣、又遣馬部吉上取小家小鳥鷄流例也、如此興遊、幼主御時